

内痔 注射で小さく

主な医療機関の治療実績を紹介する「病院の実力」。今回は、痔の治療を担う肛門科を特集する。読売新聞は2010年1~2月、内痔核治療法研究会加盟施設のうち、痔核(いぼ痔)のALTA(内痔核硬化療法)を実施している施設830か所に対し、2009年の治療実績などをアンケートした。

肛門科



鳥取編29

病院の実力「肛門科」

医療機関別2009年治療実績 (読売新聞調べ)

医療機関名	痔核の結紮切除術(件)	痔核のALTA治療(件)	痔ろうの手術(件)	医師の数(うち女性医師の数)(人)
池田外科医院	123	30	57	2
上野医院	3	28	2	1
博愛	2	10	2	2
消化器クリニック米川医院	—	13	24	1

「—」は無回答または不明。

痔の6割以上を占めるのは痔核で、手術で切除する結紮切除術が代表的だ。診療所では日帰りで行うところもある。しかし、手術後に出血などが起こる可能性があり、病院では数日の入院を勧められることが多い。

ALTAは、痔核に炎症を起こさせる注射をし、縮小させる新しい治療だ。痛みの神経がない直腸の末端部分にできる内痔核に行う。痔核を切除しないため日帰りで行いやすいが、外

注意 過度のダイエット

倉吉・上野医院 上野力敏院長に聞く



痔の模型を示し「予防と治療には生活習慣の見直し」が大切」と話す上野院長(倉吉市の上野医院で)

痔核には向かず、再発率が高いなどの欠点もある。一方、肛門の奥には細菌が感染し、ウミがたまると肛門の近くに別の穴があくこともある。

治療の基本は手術で、程度によって様々な方法がある。手術で肛門の周囲の括約筋が傷つくと、便漏れなどの恐れがある。医師とよく話し合い、可能な限り機

※全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。

能を温存できる治療法を選びたい。

アンケートでは、肛門科の医師のうち女性の数も聞いた。気恥ずかしさから受診が遅れがちな女性患者に対応するため、東京や大阪などの施設では、女性医師が増えつつある。

し、長時間同じ姿勢で座らないことなどが大切だ。「便秘がある程度高まるまではトイレに行かず、なるべく短時間で済ますことも重要」という。

とくに若い女性に目立つのが、硬い便で肛門上皮が切れたり裂けたりする裂肛(切れ痔)という。多くの場合、出血しても自然に治癒するか市販薬で治療が可能な程度で済むが、慢性的な便秘で何度も傷つけると治りにくくなり、悪化すれば筋肉組織が傷ついて肛門が狭くなることもある。

痔核も、悪化すれば入院を伴う手術が必要だが、初期の場合はALTAや手術との併用で15分~1時間程度の施術と通院による経過観察で済む。早めの受診を心がけたい。

手術する場合、上野院長は肛門の機能を温存するため、切除部分を極力少なくするよう心がけているという。「手術は治療のきっかけに過ぎない。再発防止には生活や排便の習慣を改善していくことが大切」と話している。

「痔は中年男性の病気と考えられがちだが、近年は若年層や女性の患者が増加している」。上野医院(倉吉市)の上野力敏院長(53)は指摘する。痔は、肛門付近の血行の悪化や排便時の力みすぎと密接な関係があり、不規則な生活習慣や過度のダイエットで便秘がちになると発症につながりやすい。

予防には、食物繊維を多く含んだ食品で便通を良く